

日時:2024年10月19日(土) 13:00-16:45

場所:大阪公立大学 I-siteなんば C1カンファレンスルーム

主催:日本機械学会宇宙工学部門, 関西宇宙イニシアティブ

共催:大阪公立大学工学部航空宇宙工学科, 大阪公立大学宇宙科学技術研究センター

協賛:日本航空宇宙学会関西支部

参加費:無料

【タイムテーブル】

13:00-13:25 受付

13:25-13:30 開会の挨拶

13:30-15:00 講演1:山縣雅紀 先生 (関西大学・准教授)

15:00-15:10 休憩

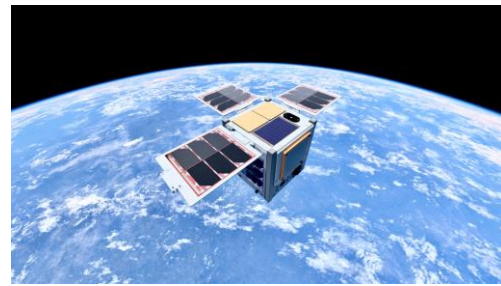
15:10-16:40 講演2:渡辺公貴 先生 (同志社大学・教授)

16:40-16:45 閉会の挨拶 ※終了後,懇親会を予定しています

☆講演1:山縣雅紀 先生 (関西大学・准教授)

熱・光・電気エネルギー技術をつめこんだ1Uキューブサット「DENDEN-01」

キューブサットは1辺が10 cmの立方体を基準とした小さな人工衛星です。低予算で短期間に開発できるため、技術実証や商業活動、地球観測、通信サービスなど、今後の宇宙ビジネスを支える重要なアイテムです。その進化は凄まじく、以前にも増して高機能・高信頼性が求められるようになりました。そのためには軌道上で常に安定した電力の供給技術が不可欠です。関西大学では、高信頼性の電源技術を提案、実証するために、1Uキューブサット「DENDEN-01」の開発を進めています。この講座では、新しい電源温度安定化デバイスを中心に、開発中の衛星の概要と進捗状況についてご紹介します。



【略歴】関西大学化学生命工学部・准教授。山口県萩市出身。慶應義塾大学理工学研究科後期博士課程修了後、京都大学産学官連携研究員、関西大学化学生命工学部助教を経て、現職。専門はエネルギー材料化学で、潜熱蓄熱材やそれを活用した宇宙機用バッテリーの研究開発に取り組んでいる。

☆講演2:渡辺公貴 先生 (同志社大学・教授)

世界最小・最軽量の月面探査ロボットSORA-Qの挑戦

JAXA、株式会社タカラトミー、ソニーグループ株式会社、同志社大学の4者で共同開発した変形型月面ロボットSORA-Qは、2024年1月20日に月着陸機SLIMへ搭載されてSLIMの着陸直前に月面へ放出されました。SLIM及び周辺の撮影に成功しました。これにより、SORA-QはLEV-1と共に、日本初の月面探査ロボットになり、世界初の完全自律ロボットによる月面探査、世界初の複数ロボットによる同時月面探査を達成しました。さらに、SORA-Qは世界最小・最軽量の月面探査ロボットとなりました。



【略歴】同志社大学生命医科学部・教授。同志社大学機械工学科1984年卒業、時計メーカーの精工舎、アメリカの玩具メーカーHASBO社の日本法人を経て、1999年にトミー(現・タカラトミー)に入社。海外向け玩具や先端技術を搭載した玩具の開発に携わり、2008年に発売した家庭用の二足歩行ロボット玩具「i-SOBOT」で「ことしのロボット大賞」を受賞(経済大臣賞)。2016年からJAXAとの共同研究を開始し、月面探査ロボット「SORA-Q」へと結実。2020年より現職。

右のQRコードからお申込みください。参加費無料です。

申込URL:<https://forms.gle/aURU3Q5zM1rz342z5>

〒599-8531 堺市中区学園町1-1 大阪公立大学工学部航空宇宙工学科 岩佐 貴史

E-mail:[iwasa.takashi\[at\]omu.ac.jp](mailto:iwasa.takashi@omu.ac.jp)

